

平成 30 年度 第 1 回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	平成 30 年 7 月 24 日 (火) 午後 7 時 00 分～ 9 時 00 分
場 所	磐田市役所本庁舎 4 階 第 2 会議室
出席委員	池上 重弘会長、水野 勲委員、藤田 允委員、高塚 勝久委員 (代理鈴木ゆみ様)、相川 アンジェラ委員、村上ナオキ委員、中村 忠裕委員 片桐 勉委員、船越 雅人委員、伊藤 孝委員、地村 みゆき委員
事務局	地域づくり応援課長、課長補佐、職員 3 人
オブザーバー	学校教育課 (欠席) 多文化交流センター 2 名 (杉田・山田)

[会議内容]

1 開会

2 委嘱状交付

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 平成 30 年度磐田市多文化共生社会推進協議会について (資料 1)

(2) 外国人人口状況について (資料 2)

(3) 第 3 次多文化共生推進プランの実施状況について (資料 3)

(4) 意見交換

4 閉会

[会議概要摘録]

●ベトナム人が増加している。国の施策の変化により技能実習生の受入れが、単純業務といわれる建設業や介護からさらに漁業などを含め、5 年から 10 年となる。地域での接点作り、地域での受け入れ態勢づくりが大事となる。

●入管法改正から 30 年。若い世代で、日本を担う人材がいる。いろんな場所に第 2 世代がいる。もう少しすれば、子育て世代になる。もうあと 10 年つなぎたい。

●人材不足といわれる中、外国人は貴重な人材、リーダーシップを取れる人材、コミュニケーション力も強く、日本社会に対する意識が強い。

●就労についての国籍の壁、日本の介護制度の難しさ、ライフサイクル全体を見る視点も必要。

●企業や自治会との接点づくりが大事。

●若者世代との交流、知らない日本人へのアピールが必要、次の段階に行く心の扉を開くよう、若者とつながり持つことが大事。

●学校現場においての通訳は、信頼関係のできる業務である。多言語のカウンセラーや専門的な力も大事。福祉面と教育面の連携、通訳者の人材育成も必要となる。

●学校教育や保育園、親との関係や雇用問題等、現場では通訳の必要性和信頼関係が重要とされる中、解決に向けた支援の議論が必要とされる。

○次回グループに分かれ、より具体的な課題を共有し、解決に向け積み重ねていくようにする。